

# I. 「学生による授業評価 2019」の概要

## I-1. 目的

本学では、授業に関する学生の理解の状況や満足感・充実感等を把握することによって、教育内容や教授方法、講義資料及び学習支援システム・施設等の改善に資することを目的とし、2005年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入した。本年度は、第15回目となり、例年の通り2019年度に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その集計・分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) 個別授業科目の改善支援……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) カリキュラム全体の改善支援……コース、プログラムにおける、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) 認証評価に関わる資料提供……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のような放送大学に固有の条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が付されるからである。

第1に、収録された放送授業は、4年間以上継続して放送する原則になっているため、授業評価で改善点が明らかになったとしても、即座に科目内容を修正することが難しい。

第2に、放送授業の主任講師は半数程度が客員教員であり、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないため、先行科目に対する評価は間接的なものとなり、往々にして参考程度の意味しか持たない。

第3に、公開大学である本学には入学試験がないこともあり、他の一般大学に比して学生集団が多様で流動性も高いため、まとまった評価傾向を見出すことは難しい。授業評価で得られた結果も他大学よりはるかに分散が大きい。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではない。事実、授業評価では毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」という意見と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」という意見は、常に同程度の頻度で見られる。もちろん、そうした意見の平均や中間点を見ても無意味であることは言うまでもない。

そして、第4に、放送大学は教員の5年任期制を採っており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。それを踏まえ、授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いるという確たる合意が必要とされるのである。

そのような本学特有の制約を伴う授業評価であるが、もちろん、全体として授業改善・カリキュラム改善に際しての欠くべからざる情報源であることに間違いはない。現在、本学では、学生による授業評価の結果を以下のような局面で有効に用いている。

- (1) 後続科目の作成にあたって、その大まかな内容や担当する講師の選定、難易度等をコース、プログラムで検討する際の重要な情報となる。
- (2) 開講の途中の年度であっても、授業評価で問題が指摘された箇所については、そうした指摘を参考に、科目内容に部分的修正を加えることが可能である。
- (3) 授業評価のうち、特に難易度に関する学生の指摘は、通信指導問題の修正や適切な難易度の単位認定試験問題を次学期以降に作成するうえで非常に役立つ。

今回の、そして今後の授業評価結果がそうした観点から積極的に利用されるべきものであることは言を俟たない。

## I-2. 構成と内容

本学生による授業評価調査（放送授業）は、大きく分けて3つの部分からなっている。

第1は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の2つに分かれる。

第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらう形態を採った。

そして、第3は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については206、207頁を参照されたい。

## I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、2019年度第1学期に本学で開講していた放送授業のうち、本年度に開設した科目、学部52科目、大学院11科目、計63科目である（表1-1参照）。このような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず1回授業評価の対象とされることになる。

表 1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数

【学部】					【大学院】				
コース	科目数		有効回答		プログラム	科目数		有効回答	
	2019年度		2019年度			2019年度		2019年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比		全開設	評価対象	人数	構成比
基盤科目	2	2	604	13%	生活健康科学	3	3	68	19%
基盤科目(外国語)	2	2	48	1%	人間発達科学	1	1	45	13%
生活と福祉	8	8	970	21%	臨床心理学	3	3	159	45%
心理と教育	5	5	780	17%	人文学	1	1	31	9%
社会と産業	12	12	505	11%	情報学	2	2	30	9%
人間と文化	8	8	949	21%	自然環境科学	1	1	17	5%
情報	6	6	307	7%	全体	11	11	350	100%
自然と環境	7	7	333	7%					
夏季集中科目(看護)	2	2	54	1%					
全体	52	52	4,550	100%					

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

昨年度より、教務情報システム（システムWAKABA）のアンケート機能を用いたオンライン調査とし、評価対象科目を受講した学部 27,392 名、大学院 1,028 名、計 28,420 名（いずれも延べ人数）に対し、学内連絡及びメールにて周知を行い、実施した。

調査期間は第 1 学期単位認定試験終了後の 7 月 19 日から 9 月 30 日までの 74 日間とし、有効回答数は学部 4,550 票、大学院 350 票、計 4,900 票であった。無記名調査ながら、有効回答率は学部 16.6%、大学院 34.0%、全体で 17.2%と、2018 年度の有効回答率（2018 年度新規開設科目学部 5.5%、大学院 9.2%、全体 5.6%）と比較すると学部、大学院共に、有効回答率は大きく上がっている。

表 1-2 調査対象者数および有効回答率

	2019年新規開設科目			2018年新規開設科目			2017年新規開設科目		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	27,392	4,550	16.6%	38,586	2,136	5.5%	11,515	4,524	39.3%
大学院	1,028	350	34.0%	830	76	9.2%	1,512	705	46.6%
計	28,420	4,900	17.2%	39,416	2,212	5.6%	13,027	5,229	40.1%

#### I-4. 時系列分析

報告書の一部に過去2年度の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講1年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目が異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

## I-5. 回答者の特性

### (1) 回答者の属性分布と母集団との比較

(次頁表 1-3) は、回答者の属性分布と母集団 (全受講登録者) の属性分布を比較したものである。両者を比較して、回答者の属性分布と母集団の属性分布間に乖離がないか確認を行う。

学部では、男性は+5.5 ポイント、女性は-5.5 ポイントで母集団との差は、男性でプラス、女性でマイナスであった。

年齢階層別では 19 歳以下~40 歳代までがマイナスで、20 歳代 (-7.8 ポイント) と 30 歳代 (-6.9 ポイント) が、母集団との差が大きかった。

反対に母集団より高かったのは 50 歳代~70 歳以上で、50 歳代 (+9.1 ポイント) と 60 歳代 (+8.2 ポイント) が特に差が大きかった。

学生種別では全科履修生が+12.0 ポイントと母集団から最も大きく乖離しており、反対に選科履修生が-11.2 ポイントで、科目履修生 (-0.8 ポイント) は、母集団とほとんど変わらなかった。

一方、大学院の性別では男性が+2.7 ポイント、女性は-2.7 ポイントであった。

年齢階層別では 20 歳代 (-2.3 ポイント) と 30 歳代 (-1.1 ポイント) 及び 70 歳以上 (-2.3 ポイント) が母集団より低く、40 歳代~60 歳代が高かった。

特に 60 歳代は+4.5 ポイントと年齢階層別の中で、最も母集団との差が大きかった。

学生種別では修士全科生が、母集団から大きく乖離しており、20.8 ポイント上回っていた。

修士選科生は-17.5 ポイント、修士科目生は-3.3 ポイントであった。

表 1 - 3 回答者の属性分布

【学部】

		2019年新規開設科目			2018年新規開設科目			2017年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	46.8%	41.3%	5.5Pt	51.3%	45.5%	5.8Pt	48.2%	42.0%	6.2Pt
	女性	53.2%	58.7%	▲5.5Pt	48.7%	54.5%	▲5.8Pt	50.2%	58.0%	▲7.8Pt
年齢階層別	19歳以下	1.4%	2.6%	▲1.3Pt	0.3%	1.9%	▲1.6Pt	0.4%	1.0%	▲0.6Pt
	20～29歳	6.7%	14.4%	▲7.8Pt	5.9%	11.2%	▲5.3Pt	6.8%	12.7%	▲5.9Pt
	30～39歳	11.5%	18.4%	▲6.9Pt	12.1%	14.8%	▲2.7Pt	11.1%	17.1%	▲6.0Pt
	40～49歳	21.6%	25.6%	▲4.0Pt	25.8%	22.3%	3.5Pt	20.5%	24.9%	▲4.4Pt
	50～59歳	26.9%	17.8%	9.1Pt	27.6%	19.6%	8.0Pt	19.1%	19.6%	▲0.5Pt
	60～69歳	21.5%	13.4%	8.2Pt	23.3%	17.8%	5.5Pt	27.0%	17.0%	10.0Pt
	70歳以上	10.4%	7.7%	2.7Pt	5.0%	12.5%	▲7.5Pt	14.7%	7.7%	7.0Pt
学生種別	全科履修生	74.6%	62.6%	12.0Pt	83.0%	67.1%	15.9Pt	75.3%	72.5%	2.8Pt
	選科履修生	16.9%	28.1%	▲11.2Pt	13.2%	24.5%	▲11.3Pt	17.7%	21.2%	▲3.5Pt
	科目履修生	8.5%	9.3%	▲0.8Pt	3.8%	8.4%	▲4.6Pt	6.1%	6.2%	▲0.1Pt
人数(N)		4,550	82,176	-	2,136	-	-	4,524	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

Pt: ポイント

【大学院】

		2019年新規開設科目			2018年新規開設科目			2017年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団	母集団
性別	男性	54.9%	52.1%	2.7Pt	73.7%	56.7%	17.0Pt	51.1%	54.3%	▲3.2Pt
	女性	45.1%	47.9%	▲2.7Pt	26.3%	43.3%	▲17.0Pt	46.4%	45.7%	0.7Pt
年齢階層別	20～29歳	3.1%	5.4%	▲2.3Pt	5.3%	3.3%	2.0Pt	1.6%	4.8%	▲3.2Pt
	30～39歳	14.3%	15.4%	▲1.1Pt	28.9%	13.5%	15.4Pt	9.2%	12.0%	▲2.8Pt
	40～49歳	22.6%	21.9%	0.7Pt	19.7%	25.5%	▲5.8Pt	17.2%	21.5%	▲4.3Pt
	50～59歳	28.9%	28.4%	0.5Pt	32.9%	30.3%	2.6Pt	30.1%	28.6%	1.5Pt
	60～69歳	25.4%	20.9%	4.5Pt	6.6%	19.9%	▲13.3Pt	30.8%	25.7%	5.1Pt
	70歳以上	5.7%	8.0%	▲2.3Pt	6.6%	7.5%	▲0.9Pt	10.6%	7.4%	3.2Pt
学生種別	修士全科生	36.3%	15.5%	20.8Pt	53.9%	17.6%	36.3Pt	28.6%	20.5%	8.1Pt
	修士選科生	57.4%	74.9%	▲17.5Pt	42.1%	70.2%	▲28.1Pt	62.6%	71.1%	▲8.5Pt
	修士科目生	6.3%	9.6%	▲3.3Pt	3.9%	12.2%	▲8.3Pt	7.7%	8.4%	▲0.7Pt
人数(N)		350	1,028	-	76	-	-	705	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

Pt: ポイント

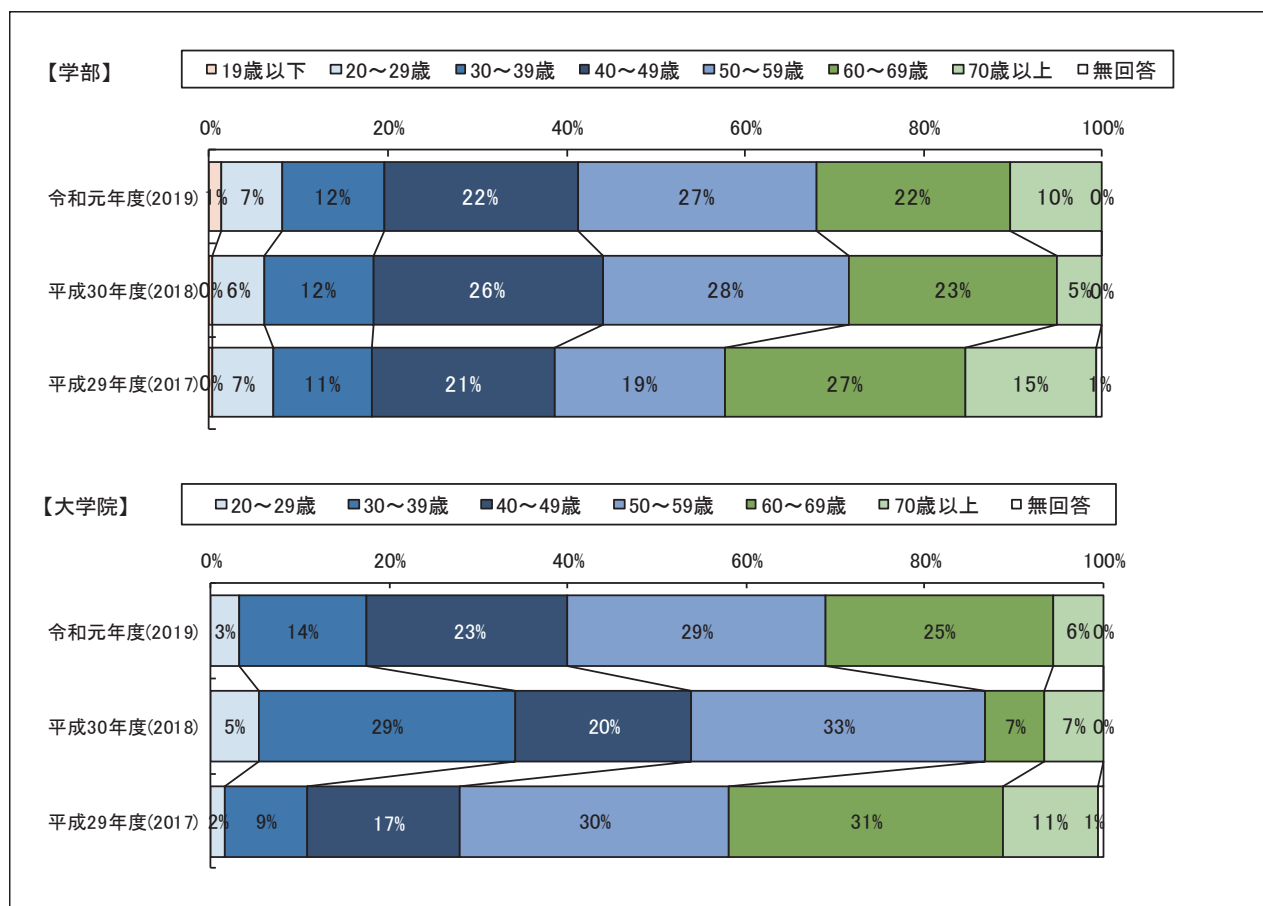
以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

## (2) 年齢階層別の分布（2019年新規開設科目）

年齢階層別に本年度（2019年新規開設科目）の回答者の分布を見ると（図1-1）、学部では50歳代が最も多く27%、次いで40歳代と60歳代が22%を占めた。昨年度と比べると、70歳代以上が10%と倍増している。

大学院では昨年度との比較で、60歳代が25%と大幅な増加が見られ、反対に30歳代が14%と半減していた。

図1-1 年齢階層別回答者



### (3) 性別の傾向 (2019 年新規開設科目)

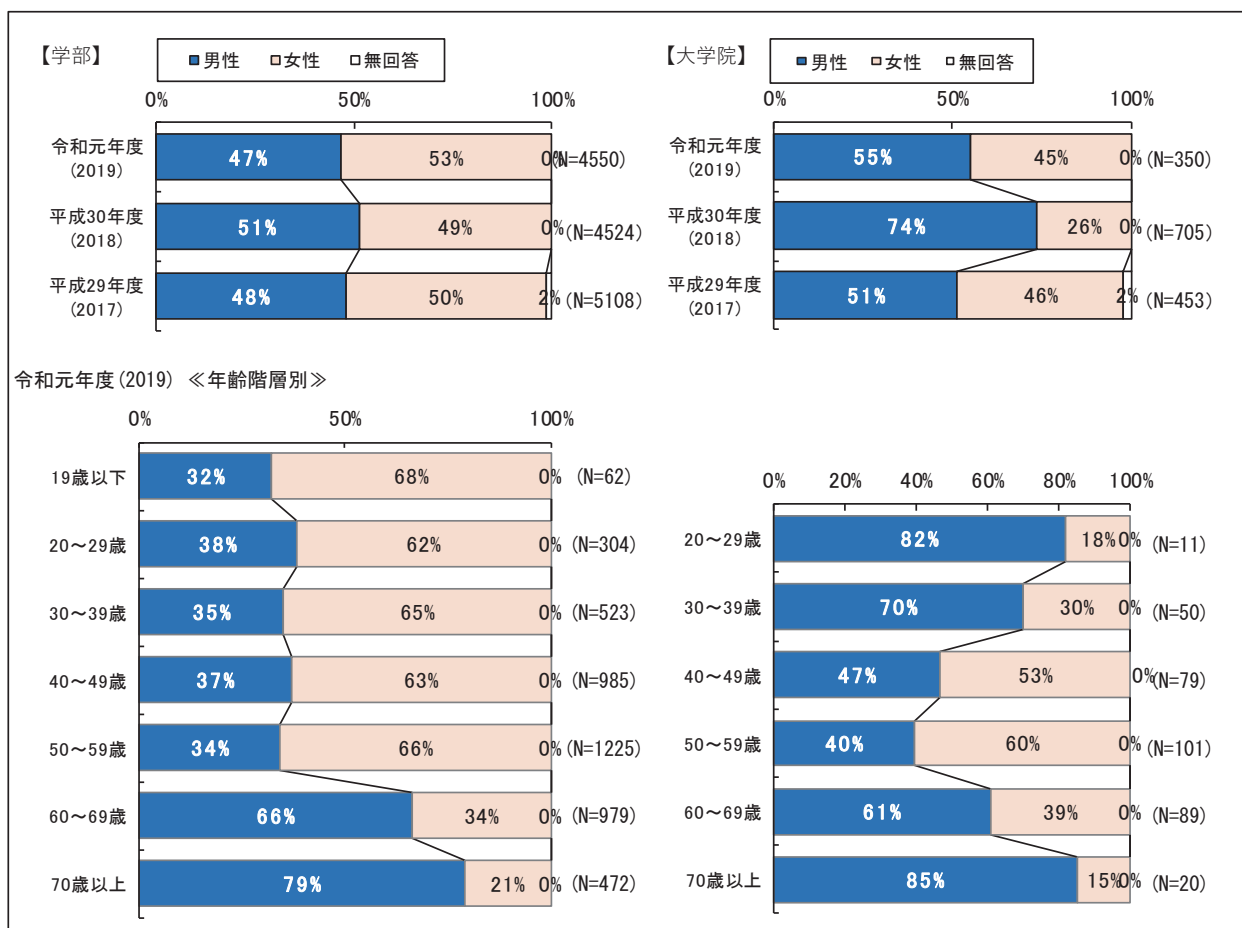
性別で見ると (図 1-2)、学部は「男性」47%、「女性」53%で、昨年度と比べると「男性」の割合が減り、女性が過半数となった。

年代別では 19 歳以下から 50 歳代までは女性の割合が男性の倍近くと圧倒的に多く、60 歳代と 70 歳以上では、反対に男性が極端に多かった。

大学院では、「男性」55%、「女性」45%で昨年度より男女間の差が縮まり、昨年度から「女性」は 19 ポイントの大幅な増加となった。

年齢階層別で最も男女間の差が大きかったのは 20 歳代と 70 歳以上で、それぞれ男性が 82%と 85%を占めていた。

図 1-2 性別回答者





#### (4) 職業別分布 (2019 年新規開設科目)

職業別では (図 1-3)、学部は「会社員」と「無職」が最も多く 21%、次いで「パート・アルバイト」が 14% で上位であった。

時系列で見ると、昨年度よりも「教員」が増え、「会社員」が減っていた。

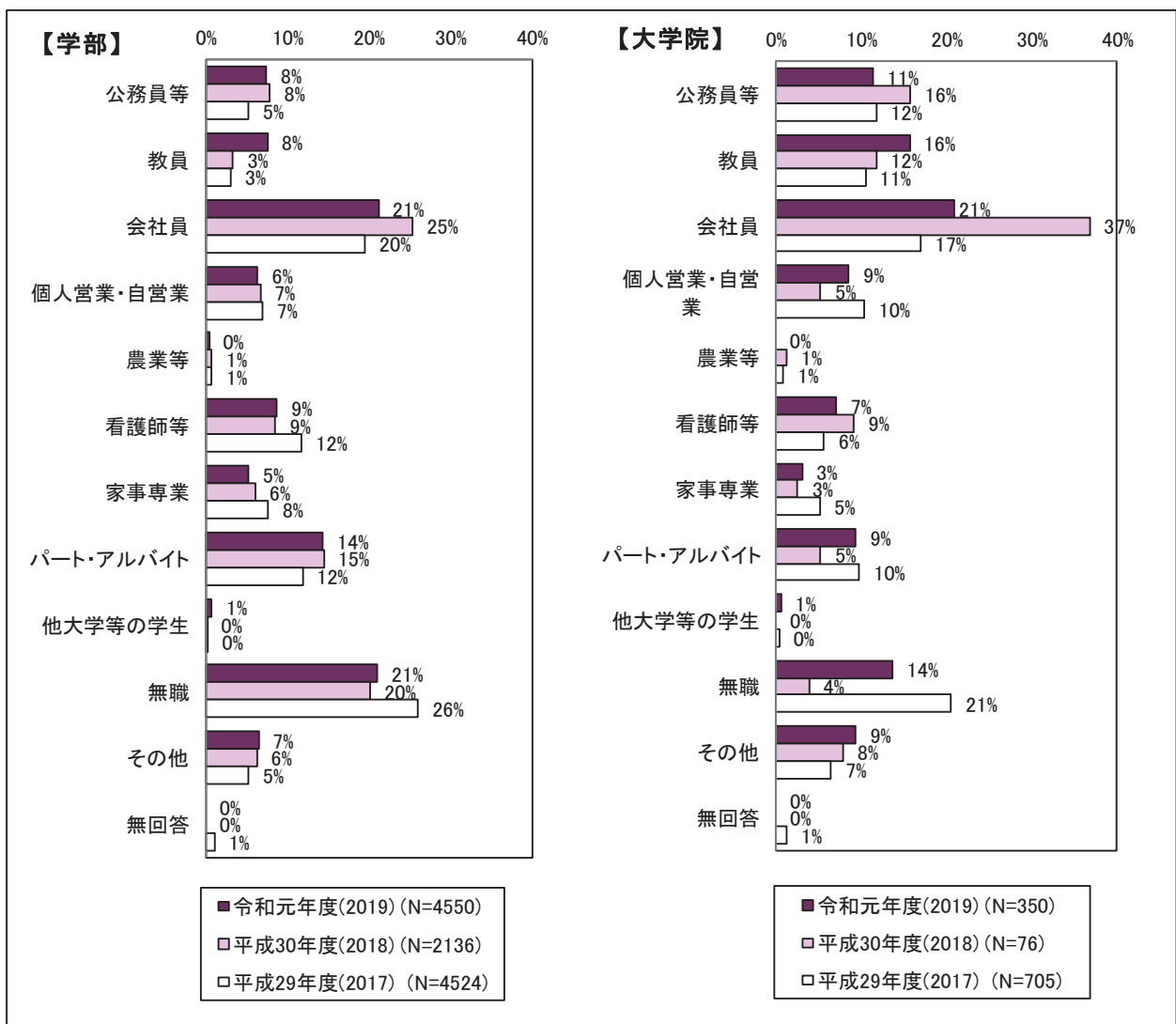
大学院では「会社員」が 21% と最多で、次に「教員」16%、「無職」14% と続いた。

時系列で見ると、昨年度よりも「無職」が大幅な増加で (+10 ポイント)、他に「教員」「パート・アルバイト」等もわずかに増えていた。

反対に「会社員」が 16 ポイント減と急激な落ち込みが見られた。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているため、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図 1-3 職業別回答者

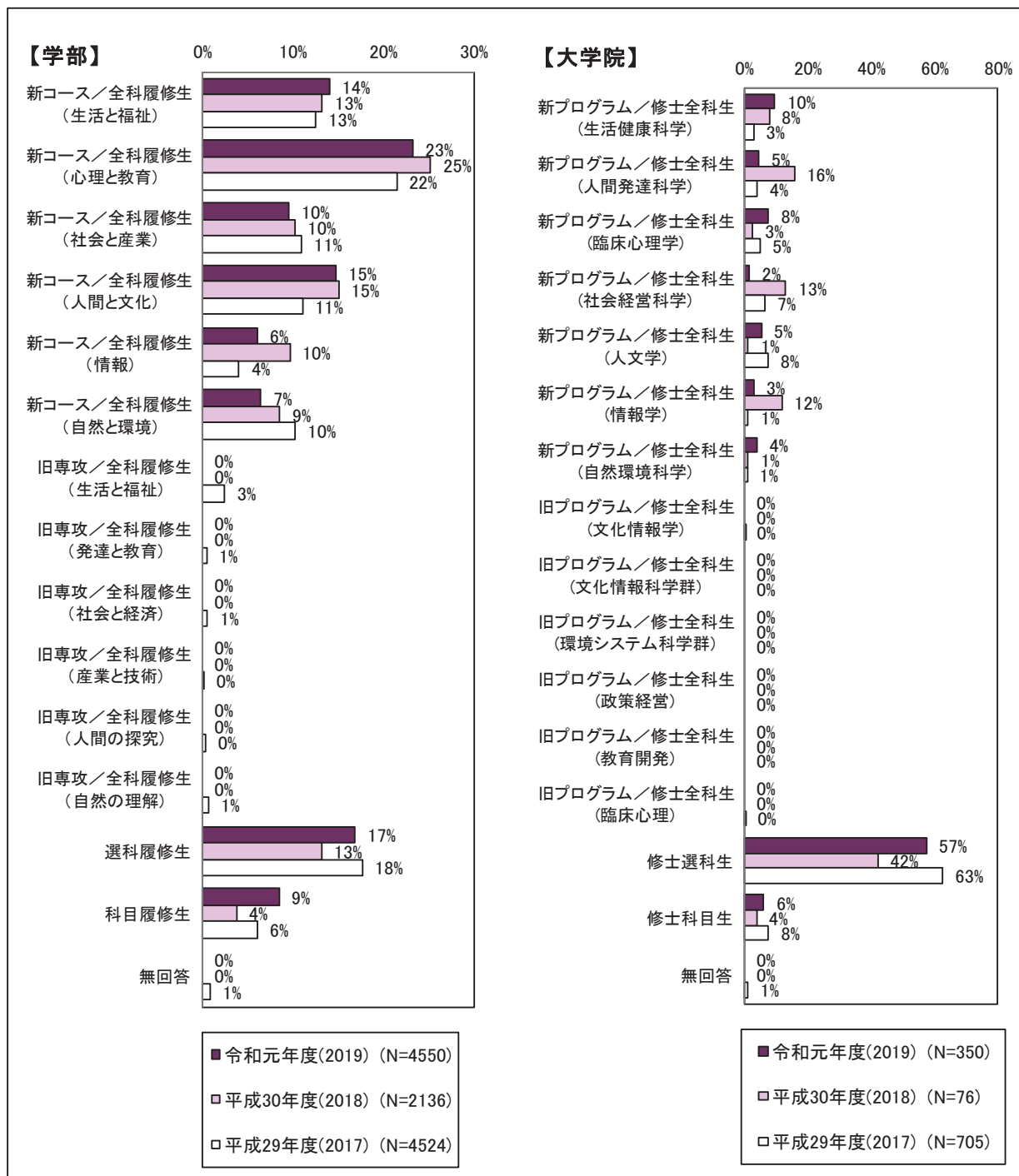


### (5) 所属コース（プログラム）別分布（2019年新規開設科目）

次に学生の所属コース（プログラム）別の分布では（図1-4）、学部は全科履修生が75%を占め、そのうち新コース所属が大半で、旧専攻所属はほとんどいなかった。全科履修生の中では、新コースの「心理と教育」（23%）、「人間と文化」（15%）、「生活と福祉」（14%）が上位を占めた。

大学院では修士選科生が57%を占めており、修士全科生が36%、修士科目生が6%であった。修士全科生の所属プログラムでは「生活健康科学」（10%）、「臨床心理学」（8%）、が上位を占めていた。

図1-4 学生の所属コース（プログラム）別回答者



## I-6. 評価結果の提供と公表

### I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という3つの大きな目的のもとに実施開始年度当初に企画された。また、当時の授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教務委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関する検討や意思決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、13頁～18頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

### I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果は授業改善の目的で用いることに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表を強く求められていることから、以下のことを基本的な方針とすることとしている。

#### (1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

#### (2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

### (3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ及び広報誌「On Air」紙上等で適宜公表することを基本とする。

## I-7. その他

---

### オンライン授業科目について

2015年度から開設されたオンライン授業科目については、原則放送授業に準じた授業評価項目をアンケート調査することとしているが、次の理由により全体集計には入れず、「Ⅲ. 自由記述のまとめ」に当該科目の自由記述の集計等を参考情報として掲載するに留める。

- ・調査時期（4月5日～9月2日）や方法（オンライン上での調査・集計）が異なること
- ・放送授業と同様に調査できない項目が一部あること（例：印刷教材を作成していない）
- ・対象科目が少ない（学部5科目、大学院5科目）こと

# 提供資料サンプル【学部】

## 学部 1 2019年度学生による授業評価の調査結果【2019年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○

( ○○○○ )

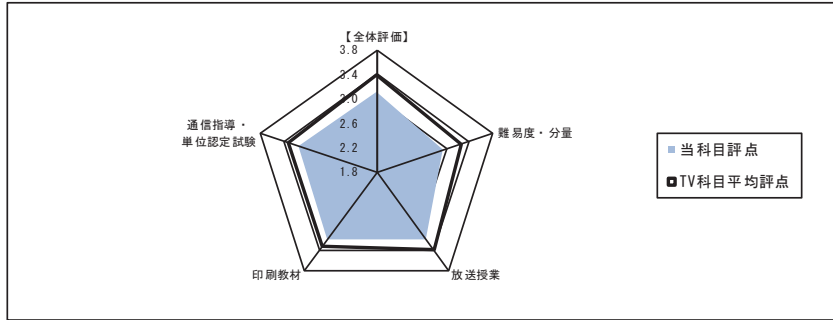
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

### 1. 取組み姿勢

取組み姿勢	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
A-1	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	208	44%	33%	18%	5%	3.17	3.44	3.46	-0.29
A-2	放送授業を十分に視聴した	208	46%	33%	17%	5%	3.20	3.25	3.32	-0.12
A-3	印刷教材を熱心に学習した	208	30%	46%	21%	3%	3.03	3.39	3.39	-0.36

### 2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	208	23%	52%	18%	8%	2.89	3.25	3.23	-0.34
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	208	29%	44%	21%	6%	2.95	3.31	3.29	-0.34
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	208	21%	52%	23%	5%	2.89	3.25	3.23	-0.34
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	208	30%	50%	15%	5%	3.06	3.32	3.30	-0.24
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	208	33%	36%	24%	6%	2.97	3.31	3.35	-0.38
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	208	53%	36%	6%	5%	3.38	3.50	3.54	-0.16
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	208	35%	44%	14%	8%	3.06	3.34	3.37	-0.31
	B-8 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	208	50%	32%	9%	9%	3.23	3.23	3.32	-0.09
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	208	36%	47%	14%	3%	3.17	3.34	3.35	-0.18
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	208	29%	46%	21%	5%	2.98	3.25	3.25	-0.27
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	208	46%	47%	6%	2%	3.36	3.18	3.31	0.05
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	208	33%	50%	14%	3%	3.14	3.32	3.34	-0.20
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	208	30%	52%	11%	8%	3.05	3.32	3.32	-0.27
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	208	47%	42%	8%	3%	3.33	3.42	3.42	-0.09
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を高めるのにふさわしい内容だった	208	38%	35%	20%	8%	3.03	3.25	3.22	-0.19
全体評価	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	208	39%	46%	11%	5%	3.20	3.34	3.34	-0.14
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	208	39%	41%	15%	5%	3.15	3.42	3.42	-0.27
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	208	56%	35%	5%	5%	3.42	3.52	3.51	-0.09
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	208	20%	47%	24%	9%	2.77	3.21	3.20	-0.43
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	208	33%	42%	20%	5%	3.05	3.39	3.40	-0.35

### 3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	全科履修生(新コース所属)						全科履修生(旧コース所属)		計			
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報コース	自然と産業	全科履修生【小計】	選科履修生				
	17	38	33	51	10	12	0	161	38	9	0	208

性別	男性	女性	無回答	計
	100	108	0	208

年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答	計
	8	13	29	44	59	44	11	0	208

職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学の学生	無職	その他	無回答	計
		18	6	61	13	0	5	14	39	1	37	14	0

通信指導・単位認定試験	単位認定試験		通信指導未提出	計
	受験	未受験	無回答	
	188	7	7	208

単位認定のための学習方法	ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ		ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ		放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ		計
	無回答	計	無回答	計	無回答	計	
	0	19	0	27	0	162	208

			A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ							A-2 放送授業を十分に視聴した							A-3 印刷教材を熱心に学習した									
			回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均
				4	3	2	1	無回答				4	3	2	1	無回答				4	3	2	1	無回答		
合計（全体）			2136	54%	37%	8%	1%	0%	91%	3.44	2136	48%	33%	15%	4%	0%	81%	3.25	2136	51%	38%	10%	1%	0%	89%	3.39
学生種別	全科	生活と福祉	284	51%	38%	9%	2%	0%	89%	3.39	284	43%	33%	17%	6%	0%	76%	3.13	284	55%	34%	10%	1%	0%	89%	3.42
		心理と教育	541	53%	37%	8%	1%	0%	91%	3.43	541	46%	34%	17%	4%	0%	79%	3.20	541	49%	40%	11%	1%	0%	89%	3.37
		社会と産業	219	54%	38%	7%	0%	0%	93%	3.47	219	47%	33%	16%	5%	0%	80%	3.21	219	52%	40%	8%	1%	0%	91%	3.42
		人間と文化	322	63%	31%	6%	0%	0%	94%	3.57	322	62%	26%	10%	2%	0%	88%	3.47	322	62%	30%	8%	0%	0%	92%	3.53
		情報	208	47%	39%	11%	3%	0%	86%	3.29	208	47%	33%	15%	6%	0%	79%	3.20	208	42%	40%	14%	4%	0%	82%	3.20
		自然と産業	183	50%	43%	7%	1%	0%	93%	3.42	183	42%	39%	13%	6%	0%	81%	3.18	183	41%	45%	13%	1%	0%	86%	3.26
	全科（旧専攻所属）	16	56%	38%	6%	0%	0%	94%	3.50	16	44%	44%	13%	0%	0%	88%	3.31	16	63%	31%	6%	0%	0%	94%	3.56	
	全科履修生【小計】	1773	54%	37%	8%	1%	0%	91%	3.44	1773	48%	33%	15%	5%	0%	81%	3.24	1773	51%	38%	10%	1%	0%	89%	3.38	
	選科履修生	282	54%	38%	7%	1%	0%	92%	3.44	282	49%	33%	14%	5%	0%	82%	3.26	282	50%	42%	7%	0%	0%	92%	3.42	
	科目履修生	81	57%	36%	7%	0%	0%	93%	3.49	81	48%	37%	14%	1%	0%	85%	3.32	81	53%	41%	6%	0%	0%	94%	3.47	
通信指導・認定試験	単位認定試験	受験	2008	55%	37%	7%	1%	0%	92%	3.46	2008	49%	33%	14%	4%	0%	82%	3.26	2008	52%	39%	9%	1%	0%	91%	3.42
		未受験	81	28%	37%	26%	9%	0%	65%	2.85	81	32%	35%	27%	6%	0%	67%	2.93	81	25%	37%	32%	6%	0%	62%	2.80
	通信指導未提出	11	27%	46%	18%	9%	0%	73%	2.91	11	27%	18%	46%	9%	0%	46%	2.64	11	36%	36%	27%	0%	0%	73%	3.09	

（注）1. 「選択肢別の回答割合」は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。

2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。

3. 評点については、選択肢「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「あまりあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」として算出した。

## 提供資料サンプル【学部】

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(学部)

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	<p>[全科履修生 新コース所属の方]</p> <p>1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 情報 6. 自然と環境</p> <p>[全科履修生 旧専攻所属の方]</p> <p>7. 生活と福祉 8. 発達と教育 9. 社会と経済 10. 産業と技術 11. 人間の探究 12. 自然の理解</p> <p>[選科履修生・科目履修生]</p> <p>13. 選科履修生 14. 科目履修生</p>
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )

どうもありがとうございました。

提供資料サンプル【大学院】

大学院1

2019年度学生による授業評価の調査結果【2019年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○

( ○○○○ )

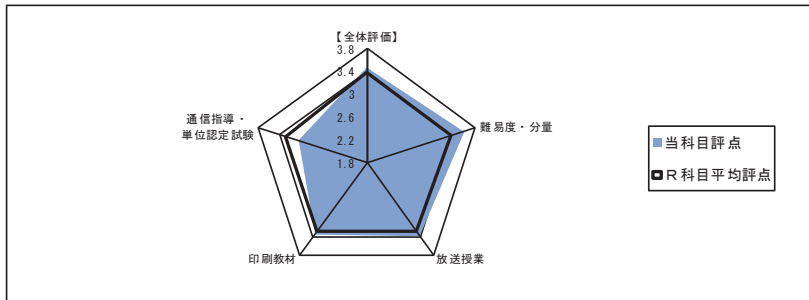
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
取組姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	45	43%	57%	0%	0%	3.43	3.53	3.53	-0.10
	A-2 放送授業を十分に視聴した	45	29%	43%	29%	0%	3.00	3.32	3.32	-0.32
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	45	57%	43%	0%	0%	3.57	3.53	3.53	0.04

2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	45	14%	86%	0%	0%	3.14	3.37	3.37	-0.23
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	45	14%	86%	0%	0%	3.14	3.38	3.38	-0.24
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	45	71%	29%	0%	0%	3.71	3.41	3.41	0.30
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	45	57%	43%	0%	0%	3.57	3.41	3.41	0.16
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	45	29%	57%	14%	0%	3.14	3.21	3.21	-0.07
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	45	57%	43%	0%	0%	3.57	3.42	3.42	0.15
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	45	29%	71%	0%	0%	3.29	3.36	3.36	-0.07
	B-8 映像がなくても十分理解できる内容と感じた	45	29%	57%	14%	0%	3.14	3.05	3.05	0.09
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	45	29%	71%	0%	0%	3.29	3.22	3.22	0.07
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	45	43%	57%	0%	0%	3.43	3.26	3.26	0.17
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	45	0%	86%	14%	0%	2.86	3.20	3.20	-0.34
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	45	29%	71%	0%	0%	3.29	3.33	3.33	-0.04
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	45	14%	71%	14%	0%	3.00	3.11	3.11	-0.11
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	45	14%	86%	0%	0%	3.14	3.25	3.25	-0.11
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を高めるのにふさわしい内容だった	45	29%	43%	29%	0%	3.00	3.13	3.13	-0.13
全体評価	B-16 授業科目内はこの科目の内容を知る上で役に立った	45	14%	71%	14%	0%	3.00	3.26	3.26	-0.26
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	45	57%	43%	0%	0%	3.57	3.47	3.47	0.10
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	45	71%	14%	14%	0%	3.57	3.55	3.55	0.02
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	45	43%	57%	0%	0%	3.43	3.30	3.30	0.13
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	45	29%	71%	0%	0%	3.29	3.36	3.36	-0.07

3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	修士全科生（新コース所属）										計		
	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	人文学	情報学	自然環境科学	修士全科生（旧コース所属）	修士全科生【小計】	修士選科生		修士科目生	
	3	9	0	0	1	1	0	0	14	26	5	0	45
性別	男性	女性	無回答	年齢			計						
	27	18	0	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答	計	45
				0	0	7	7	11	14	6	0	45	
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無回答	計
	3	7	7	6	0	4	2	1	2	10	3	0	45
通信指導・単位認定試験	単位認定試験		通信指導		学習方法		計						
	受験	未受験	未提出	無回答	ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ	ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ	無回答	計				
	43	2	0	0	5	13	27	0	45				



			A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ							A-2 放送授業を十分に視聴した							A-3 印刷教材を熱心に学習した									
			回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	評点平均
				4	3	2	1	無回答				4	3	2	1	無回答				4	3	2	1	無回答		
合計（全体）			76	57%	40%	4%	0%	0%	96%	3.53	76	47%	37%	16%	0%	0%	84%	3.32	76	58%	37%	5%	0%	0%	95%	3.53
学生種別	修士全科	生活健康科学	6	17%	67%	17%	0%	0%	83%	3.00	6	33%	67%	0%	0%	0%	100%	3.33	6	33%	50%	17%	0%	0%	83%	3.17
		人間発達科学	12	83%	17%	0%	0%	0%	100%	3.83	12	58%	33%	8%	0%	0%	92%	3.50	12	83%	17%	0%	0%	0%	100%	3.83
		臨床心理学	2	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	2	50%	0%	50%	0%	0%	50%	3.00	2	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00
		社会経営科学	10	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	10	80%	0%	20%	0%	0%	80%	3.60	10	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00
		人文学	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00
		情報学	9	44%	56%	0%	0%	0%	100%	3.44	9	33%	56%	11%	0%	0%	89%	3.22	9	33%	44%	22%	0%	0%	78%	3.11
		自然環境科学	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00
	修士全科生【小計】		41	71%	27%	2%	0%	0%	98%	3.68	41	54%	34%	12%	0%	0%	88%	3.41	41	71%	22%	7%	0%	0%	93%	3.63
	修士選科生		32	38%	56%	6%	0%	0%	94%	3.31	32	34%	44%	22%	0%	0%	78%	3.13	32	44%	53%	3%	0%	0%	97%	3.41
	修士科目生		3	67%	33%	0%	0%	0%	100%	3.67	3	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	3	33%	67%	0%	0%	0%	100%	3.33
認定試験・通信指導	試験単位認定	受験	74	57%	41%	3%	0%	0%	97%	3.54	74	47%	37%	16%	0%	0%	84%	3.31	74	58%	37%	5%	0%	0%	95%	3.53
		未受験	2	50%	0%	50%	0%	0%	50%	3.00	2	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50	2	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50
	通信指導未提出	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	

- (注) 1. 「選択肢別の回答割合」は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。  
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。  
 3. 評点については、選択肢「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「あまりあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」として算出した。

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(大学院)

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	〔修士全科生 新プログラム所属の方〕 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 人文学 6. 情報学 7. 自然環境科学 〔修士全科生 旧プログラム所属の方〕 8. 文化情報学 9. 文化情報科学群 10. 環境システム科学群 11. 政策経営 12. 教育開発 13. 臨床心理 〔修士選科生・修士科目生〕 14. 修士選科生 15. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )

どうもありがとうございました。